

轟 と ど ろ

平成21年 6月25日

6月号

6月は、いじめ根絶月間の取組を推進



熊本県下の小中学校では、6月をいじめ根絶月間として様々な取組を進めています。子どもたちの生活の中で、いじめが起きているかも知れないという視点に立って子ども一人一人を見つめ、アンケートを取るなど実態調査も行いました。全校集会では、校長講話を行い、いたずら落書き行為がどれほど人を傷つけることになったのかという自作教材を基に全員で考え発表し合いました。

高尾さんの田んぼで田植え体験



今年も高尾昇さんのご協力で、田植えの体験をさせていただきました。高尾さんの棚田は、写真家が撮影に来られるほど夕日が映える風光明媚な場所に位置しています。みんな毎年昔ながらの手植えに挑戦しました。きれいに代掻きされた田んぼに足を入れると子どもたちの歓声はピークになりました。苗を目印の横に植え付けるのですが足を取られて悪戦苦闘。ついには全身泥だらけ。でも、みんな笑顔いっぱい笑っている田植えでした。

平家伝説について学ぶ

子どもたちが毎日のように立ち寄る平家の里。そこには昔から伝わる平家伝説を後世に伝える荘厳な趣きの平家の里資料館があります。しかし、子どもたちは展示物一つ一つの意味する内容を知っているようで知らないのです。そこで高木さんをお願いして分かりやすく説明をしてもらい、自分たちのふるさとの素晴らしさと先人の命の受け継ぎの苦労を学びました。



校 長 コ ラ ム

10日に平家の里資料館で高木さんに平家落人伝説について、展示資料をもとに詳しくお話していただきました。子どもたちはよく遊びには行くものの内容については殆ど知らなかったようです。子どもたちの聞き入る目は輝やいていました。その時、地域を知らないで卒業させている現実に深く反省させられました。一般的に、人は外ばかりに目を向けがちで目の前の身近な幸せに気づかないという傾向があるようです。小生も都会でおしゃれに働くホワイトカラーに憧れたものです。汗して働く父が突然の交通事故で他界してから亡くした父の偉大さに初めて気づかされました。町の便利さや華やかさを体験させるのも大切なことではありますが、まずは、生まれ育った家族の良さや手作りの我が家の味を伝え、ふるさと縦木の人・自然・文化などにそこまで足を運んで親子で触れ、直接体験することを意図的に進めて欲しいと願っています。小学生までに体験しないと後はできません。ゲームよりも川遊び、ショッピングセンターよりもハイキング、芸能人よりも物知りじいちゃん・ばあちゃん、レストランよりも手料理など親の関わり方で子どもの視線・価値観は変化します。学校と家庭が一体となって、子どもを身近なものに目を向けさせ深く関わらせて身近な幸せを体感させましょう。

プール掃除を親子みんなで

今年も水泳のシーズンとなりました。防火用水として貯水していたプールも水泳の勉強が始まることから、毎年大掃除をします。児童数が少ないため保護者の協力を得て、掃除をするのですがコケや落ち葉でプールは真っ黒。おまけに水道がストップしたので大変でした。トラックに大型ポリタンクを積んで川で汲み上げ水で洗い流しました。掃除日は渇水期と重なるため、地域の飲料水も不足することから、PTA有志のご協力で甲佐町から散水車2台を2日間借り上げて100往復かけて川の水をプールに入れていただきました。ありがとうございました。



1・2年生が梅ジュースづくりに挑戦

太宰府天満宮からいただいた由緒ある梅の木に、今年もびっしりと実がつけました。昨年は全校でカリカリ梅づくりに挑戦しましたが、見事に失敗しました。今年は、1・2年生が自分たちで収穫した梅をきれいに洗って梅ジュースづくりに挑戦しました。



泉町内の小学生と一緒に勉強



泉町内の小学校では、児童数の減少に伴う少人数学級の増加により同じ学年の多様な考えを聞く機会が減ってきています。そこで4校の児童が一堂に集まって、その課題を解決する方策の一つとして同じ学年の友だちと一緒に勉強する集合学習を年2回実施しています。みんな泉中学校に進学する仲間でもあり、24日に泉第一小学校で実施して、たくさんのお友達ができました。